

### 次期(2011年3月期)の業績の見通し

(2010年5月現在)

日本経済は、アジアを中心に世界経済回復の兆しが見られる中で、米国経済や欧州経済の回復に合わせて、輸出も改善に向かい、デフレの懸念はあるものの回復軌道を進めるものと見ております。アジアでは中国の景気過熱が懸念されますが、好調を維持すると予想されます。米国においては、金融環境の改善や企業業績の下げ止まりにより、徐々に回復に向かうと予想されます。

このような状況の中で、当会計年度に行った事業買収により新たに加わるDCブラシレスモーター事業による売上の増加や、堅調なアジア市場での拡販、及び好調なハードディスクドライブ関連市場向けの販売の増加が期待されることから、売上高 265,000 百万円、営業利益 23,500 百万円、当期純利益 12,500 百万円を見込んでおります。

機械加工品事業において、主力製品であるボールベアリングは、自動車業界・情報通信機器関連業界等への積極的な拡販を進め、拡販に伴う量産効果と更なるコスト削減により、一層の業績向上を図ります。景気回復によりアジアを中心にボールベアリングの販売増加が見込まれます。また、ピボットアッセンブリーも市場の需要が旺盛であり売上の増加を見込んでおります。

電子機器事業において、情報モーター事業は、引き続き生産効率改善、及び製品構成の見直しを行い一層の業績向上に努めます。また、当会計年度に行った事業買収により、DCブラシレスモーター事業が新たに加わることで売上の増加が見込まれます。スピンドルモーター事業は、旺盛な市場の需要に対応すると同時に、コスト削減の推進と、2.5インチモデルの販売数量引き上げ等により業績の改善を図ります。また、キーボード事業は品質の高い高付加価値品や新たなインプットデバイス製品等に注力することで業績の改善を図ります。液晶用LEDバックライト、インバーター及び計測機器他も拡販により売上の回復を目指します。

### 事業等のリスク

当社グループの経営成績及び財政状態等に影響を及ぼす可能性のあるリスクを次のように考えております。なお、文中の将来に関するリスクは、有価証券報告書提出日(2010年6月29日)時点において、当社グループが判断したものであります。

#### (1)市場環境

PC及び周辺機器、情報通信機器、家電を中心とする当社製品の主要市場は、国内外において競争が非常に激しく、需要が大きく変動するため、経営成績及び財政状態等に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (2)為替変動

当社グループは海外売上高比率及び海外生産高比率が高いため、為替相場の変動によるリスクがあります。このため為替予約を中心とするリスクヘッジ取引を行っておりますが、長期的には為替変動により経営成績及び財政状態等に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (3)研究開発

新規製品・高品質製品を市場に継続的に投入する必要があるため研究開発を行っておりますが、研究開発の成果は不確実なものであり、多額の支出を行ったとしても必ずしも成果に結びつかないというリスクがあります。

#### (4)重要な訴訟等について

国内及び海外事業に関連する訴訟等の対象となるリスクについては、法務部門が一括して管理しております。将来、重要な訴訟等が提起された場合には当社グループの経営成績及び財政状態等に重要な悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (5)価格交渉

海外製の低価格製品との価格競争は大変厳しいものとなっており、低品質、低価格のニーズを持つ市場では市場シェアを維持・拡大できない可能性があります。

#### (6)原材料費・物流費等のコスト

外部からさまざまな原材料等の調達を行っており、在庫量の最適化、安定供給と安定価格の継続を図っておりますが、原材料等の価格上昇が経営成績及び財政状態等に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (7)海外進出に潜在するリスク

当社グループの生産の多くは、タイ、中国、シンガポール等海外で行われております。海外進出後、長期間が経過し、地場との融合が行われていますが、予期しない法律又は規制の変更、人材の採用と確保の難しさ、テロ・戦争及びその他の要因による社会的混乱といったリスクが内在しております。